

平成 26 年度第 3 回江別市地域公共交通会議開催結果（要旨）

日 時 平成 27 年 3 月 26 日（木）13 時 30 分～14 時 19 分

場 所 江別市教育庁舎 1 階大会議室

出席者 高野会長、四宮委員、井筒委員、下段委員、樋口委員
※ジェイ・アール北海道バス株より高橋委員の代理として営業本部営業部渡部氏
が出席

その他 一般社団法人北海道開発技術センター吉田研究員が出席

- 次 第
- 1 開 会
 - 2 協議事項
 - (1) バス実証運行対象地区の検討について
 - (2) 江別市地域公共交通会議の再編について
 - (3) その他
 - 3 その他
 - 4 閉 会

(高野会長) バス実証運行対象地区の検討について説明をお願いします。

(事務局) 江別市のバス運行の基本的な考え方であるが、今年度に改正された都市計画マスタープランにおいては、バス交通などの利用促進を図るため、都市機能が集積する拠点であり、主要な交通結節点である駅を中心とした効率的なバス交通体系の検討を行い、利便性の向上を図ることとしている。

その検討方針としては、駅を中心とした公共交通の再構築により、特にバス交通の利用促進や最適化を図り、駅周辺と住宅地である郊外を結ぶ移動利便性の高いまちづくりを目指していきたいと考えている。

まずは駅前広場が整備された野幌駅北側地域におけるバス路線の再構築の検討を優先的に進めることとし、効果的なバス交通網の実現に向けて、路線再編のための実証運行へつなげていきたいと考えている。

前回は、野幌駅周辺地域における公共交通に関するアンケート調査報告をさせていただき、今後のバス実証運行ルートについて、ご協議いただいた。その中で実証運行については野幌駅北側地域を対象として進める方向となった。

今回は、実証運行の対象地区、方向性について、さらに絞り込んで議論をお願いしたいと考えている。

本日の資料のイメージ図で、1つ目は図の右上にある見晴台、新栄台周辺地区と野幌駅との間における流れを想定したもの。

このターゲットエリアについては、既存路線の乗降客数の多いバス停が多くあるエリアで赤字で表示しているバス停がその部分を示している。このターゲットエリアは需要が見込まれる地域と考えられる。

今回のアンケート調査結果から、野幌駅までの所要時間短縮の意向が最も多かったことから、これらの居住地域と駅との間で、このような流れが想定できるのではないかと考えている。

また図の左側にあるターゲットエリアとして、野幌高校周辺部の部分についても、同様に野幌駅との流れが想定できるのではないかと考えている。

このイメージ図は、アンケート調査結果、利用者データから、事務局案として、このような流れが考えられるのではないかとというものである。実際にできるかどうかという問題はあるが、まず、この案に対して、ご意見などをいただきたいと考えている。

実証運行の予算についてであるが、すでに3月補正予算で措置しており、27年度に繰り越すこととしている。

予算上の仕様としては、車両1台、乗務員2名、運行期間5ヶ月を想定したものになっている。

今後27年度に入ってから、現在の地域公共交通会議を再編し、その中で、さらに詳細に詰めていくこととしているが、今回は、その下地となる実証運行の方向性、大まかな形を整えていきたいと考えている。

この実証運行の内容が固まった後は、事務的な流れが出てくる。その後、運行事業者を決定しなければならない。これは入札などを想定している。その他運輸局への申請手続きを経て、秋口くらいからの実証運行を想定している。

実証運行については、この会議において対象範囲などをさらに絞り込んで、具体的なルート案につなげていきたいと考えているので、皆様からのご意見をいただきたい。説明は以上である。

(高野会長) 具体的な路線は想定していないか。

(事務局) 具体的な路線については、拡大版の地域公共交通会議の中で絞り込んで決めていきたい。

(井筒委員) 実証運行は無料か有料か。

(事務局) 有料で考えている。

(井筒委員) 時間帯はどのくらいか。

(事務局) データを取ることが目的であり、どのような分散の仕方をするかは今後詰めていきたい。

(事務局) 補足すると具体の中身はこれから議論いただいて決まっていくことになると思う。予算は地方創生の交付金の申請をするために平成 26 年度中の申請が必要で補正計上しなければならない事情があった。実際にルートのコンクリートがされていないうちに予算計上を概算で行った事情がある。その中身はバス 1 台を使って運転手 2 名で朝から夕方まで走らせることができることを想定している。そういった予算計上をしているので、その範囲内でご議論いただいた中で具体の路線を絞り込んで入札の仕様を作り込んでいきたい。

(渡部氏) 車両、乗務員の数は、この先変わることはあるのか。

(事務局) 概算の予算で組んでおり、最低限必要と思われる人数と車両数でやっている。できればこの範囲内で進めていきたいが、今後の協議の中で詰めていきたい。

(事務局) 予算の額が決まっているので、台数を増やせば期間を短くするか時間を短くする。トータルは一緒。

(四宮委員) 利便性を拡大しつつ最短距離を結ぶということであれば、自ずと大体コースは決まってくるのではないかと見晴台から 6 丁目通に入って野幌 7 丁目、野幌駅前に入るようなコースになるのではないかと。

(高野会長) 今の路線に対しての影響は結構ありますね。

(事務局) 既存路線への影響は当然出てくると思うが、全く同じところを走るような場合

は、新しく実証運行することによって減収になった分については、実証運行の収益とうまく相殺させるような形ができないか考えている。既存路線の減収分は事業者のマイナスにならないような方法ができないか考えている。

（高野会長）実証路線の料金は通常料金か。もっと安い料金か。

（事務局）通常の運賃を想定している。

（高野会長）バス停も既存のバス停を使うのか。

（事務局）ここに走っていない事業者は、バス停を置かなければならない。

（高野会長）周知についても相当しないとらない。

（渡部氏）利用者の絶対数はそんなに大きい数ではないと思う。同じところ同士をつないでも決まった数を乗せ合うことになり、結果的にあまり乗らなかったということになると思う。

（事務局）基本的には利便性の高い路線を引くことで需要喚起をして増収につなげていたきたいというのがある。それと同時に既存路線の減便や廃止と組み合わせて再編という形で取り組んでいきたいというのがある。路線はまだ決まっていないが、実証運行したものが本格運行につながっていった場合は、野幌駅北側地区のトータルでの路線のことについて整理が必要。そうしないとたぶん供給過剰になると考えている。

（高野会長）例えば1日2日とか立ち上げの時などには無料の日を作るとか、無料の券を配るとか、そういうプロモーションのやり方をしていけないと難しいし、そういうことで乗っていただいて、いろいろなニーズとか、バスの再編ということがありと既存の路線を集約するということに対するニーズの把握、そういうことも実験運行と併せてやる仕掛けを考えていけると、乗ってみて1日何人という数字が出てくるだけだと次につながっていかない。

地元に限られるというか、集中して住んでいる皆さんにアプローチできるので、その辺をうまく活用して、プロモーション、意見の吸い上げの方法を考えていただきたい。

（井筒委員）秋口から実施するということで、利用者の流れは真冬の状況になるので夏と全然違う。冬に利用する人たちのことを考えてルートを作っていく。当社で野幌高校のスクールバスを動かしていた。

（下段委員）現状と結果が比較できるような形を取らないと、結果が良かったかどうかわからない。ここだと重なるので比較が難しいというのがあるかと思う。

(高野会長) 総括的に言うと、事前の状況を把握することを実証運行前にやらないとならないし、周知することをやらなくてはならない。また利用者の意向を再編を含めて集めておく仕掛けをしなくてはならない。ただ何人1日平均乗りましたということだけで終わるのでは実証運行の意味がないということが大きな課題だと思う。

(事務局) 具体的なルート案をこれから詰めていく中で、例えば道路形状とかいろいろな制約が出てきて変わってくる可能性もあるが、これまでの調査のニーズ、利用状況から見て大体これくらいの流れを求めているというのがあろうかと思う。地元の方々との意見交換も含めて実態、意向の把握を考えていきたい。

周知についても、さきほどご提案いただいたようなことも考えていきたい。

(高野会長) 詳細については年度があらたまってからご検討いただくことでよろしいか。

(各委員) 【異議なし】

(高野会長) 次の地域公共交通会議の再編について説明をお願いします。

(事務局) 資料は江別市地域公共交通会議構成団体・機関等(案)となる。現行の組織体系は上段の6名となる。それに加えてバス乗務員の組合、市民・利用者、警察署、道路管理者、江別市という形の道路運送法上の地域公共交通会議の位置付けになる。こういった形で整備していきたい。

市町村が行う実証運行については、道路運送法上の地域公共交通会議の了解が必要であること、今後の路線再編の検討に向けては、安全上の問題、利用者の意向などを反映する必要があるのではないかということで拡充して検討を進めていきたい。

現在、開催に向けて準備を進めているので、引き続きご協力をいただきたいと考えている。

(高野会長) 市民・利用者のメンバーは、どのように集めるか。

(事務局) できるだけ公募の方向で進めていきたい。今のところ3名程度で考えていきたい。

(事務局) 公募を基本とする考えであるが、例えば野幌北地区で自治会の連絡協議会から1人出してもらうとかこれから調整したい。公募の場合、例えば住んでいる地域を限定するのかどうかとか工夫しないと、あまり離れたところから出てこられても議論に参加できるかという不安もある。

(高野会長) その他あるか。

(事務局) 今までこの会議の中では実証運行、路線再編の話ばかりしているので、前段

の公共交通検討会議の中では、情報提供の推進、利用促進の取り組みを進めていこうということで進んできているので、これらについても並行して皆様のご協力をいただきながら進めていきたい。

市では昨年から出前講座をメニュー化して、バスの利用の仕方、ＩＣカードの使い方など周知を図っていきたいと考えているので、今後とも関係団体、事業者の方々にはご協力をお願いできれば有り難いと考えている。

その他に、例えば案内表示などについても検討の余地がないか、江別の独自性のあるものが何かできないだろうか、あるいは、こんな取り組みをしてはどうかなど、ご意見などをいただければと考えているので、もしアイデアなどあれば、ご提案いただければ有り難いと考えている。

（樋口委員）構成団体はタクシー事業者は入れないか。

（事務局）検討させていただきたい。

（下段委員）江別市内全体のバス路線再編という考え方もある。自分の会社だけで考えていくのか、交通会議が主体で全体を考えてやっていく流れになるのか。

（事務局）基本的にはそれぞれ各事業者が独立採算でやり、路線も昔に比べて自由に走れるようになった。市民の利便性を維持しつつ公共交通も維持したいというのが私どもの考え方である。この会議が江別市全体の交通を調整する場になってくれれば、あるいはしなければならぬと考えている。

江別市全体の公共交通についてのグランドプランといったものがないのか、あるいは必要ないのかという意見がある。特定の駅、区域ごとにまず解決していこうということで説明している。今回の例では野幌駅の北側エリアをまず解決し、次にどこに手を付けるかはこれから考えていかなければならないし、皆さんの意見も伺いながらやっていきたい。それは野幌駅南側か江別駅の周辺か大麻かこれから順次決めていきたい。

（高野会長）旭川のこういう会議に入っているが、路線をちょっと短くするとか長くするとかそういう事業者ベースの提案もこの中で議論している。公共交通のマスタープランは全体を見直そうというきっかけというか、そういうものを積極的に何かやらないとなかなか全体の話にならない。

（事務局）方向性については、都市計画マスタープランの中に謳っているもので、それに基づいてやっていきたい。それを具体的にどう展開するのかということだと思う。

（高野会長）全般を通じて何かあるか。

（各委員等） 【なし】

(高野会長) 議事は以上となる。